

趣旨及び基準など

- 子育て家庭の様々なニーズに応えられる絵本・児童書を整備するほか、おはなし会や講座等を通して、親子等で読書に取り組みながら、子育てに関する課題解決ができるよう適切な支援を行うもの。
- 公共図書館として、子育てに関する課題解決支援機能を発揮し、子育てに関連する情報やサービスの提供機関として一定の役割を担う。

【図書館の設置及び運営上の望ましい基準】

第二 公立図書館(一 市町村立図書館)

1 管理運営

(六) 施設・設備

- ・高齢者、障害者、乳幼児とその保護者及び外国人その他特に配慮を必要とする者が図書館施設を円滑に利用できるよう、拡大読書器等資料の利用に必要な機器の整備、点字及び外国語による表示の充実等に努めるとともに、児童・青少年の利用を促進するため、専用スペースの確保等に努めるものとする。

3 図書館サービス

(三) 地域の課題に対応したサービスの実施

- ・子育て、教育、若者の自立支援、(中略)等に関する資料及び情報の整備・提供

(四) 利用者に対応したサービスの充実

- ・乳幼児向けの図書及び関連する資料・情報の整備・提供、読み聞かせの支援、講座・展示会の実施

【第3次飯塚市子ども読書活動推進計画】

読書活動を通じて「かしこく やさしく たくましい」子どもたちの育成や、学校・家庭・地域が連携し子ども・若者の健全育成を推進する。

(3つの基本方針)

- 1 子どもの発達段階に応じた関係機関の連携・協力による読書活動の推進
- 2 安心・快適な子どもの読書環境の整備
- 3 デジタルデバイスを活用した新たな読書活動の調査・研究

図書館の子育て支援サービスの取組について

【施設等】

○子育て情報コーナー

- ◆ 国・県・市及び子育て支援センター等関係団体からの情報について、ポスター・チラシの掲示、パンフレット等を配架するための特集スペースを設置
- ◆ 児童開架室の「おはなしコーナー」(*1)内に、子育て支援に関する書籍(食・生活、子どもの病気、お出かけ・遊び等育児全般)やおすすめ絵本の紹介冊子等を配架(飯塚館・ちくほ館)

○小さなお子様連れの方へ

- ◆ 児童開架室の「おはなしコーナー」(*1)内に、赤ちゃん絵本、大型絵本、紙芝居等を配架し、お子さんと一緒に絵本等を読むための場として供用
- ◆ 児童開架室に児童トイレを設置(飯塚館・ちくほ館)
- ◆ 図書館内の男・女トイレにベビーチェアを設置(飯塚館・ちくほ館・穎田館)
- ◆ ベビーカーの設置(ちくほ館)
- ◆ 児童開架室に隣接して、授乳やおむつ替えができる「授乳室」を設置
※図書館(飯塚・ちくほ・庄内・穂波)は「赤ちゃんの駅」登録施設

(*1)飯塚図書館(コミュニティセンター内)については、大規模改修事業に伴い、子どもと保護者が気軽に絵本や読み聞かせを楽しめるような専用コーナーに改修予定

○担当スタッフ等の配置・確保

- ◆ 資料の選定・収集・入れ替えや、レファレンス、講習会の実施、専門の関係機関との連携等に対応できるスタッフの配置やスキルや経験のあるボランティア等の活用

図書館の子育て支援サービスの取組について

【事業等】

○ブックスタート

赤ちゃんとその保護者に絵本を開く楽しい体験といっしょに絵本を手渡し、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくるメッセージを届ける活動

- ◆ 飯塚市立図書館と飯塚市こども家庭課(旧子育て支援課)の連携により実施
- ◆ 「赤ちゃんすくすく元気訪問」または「新生児訪問」時にブックスタートパックを手渡し(R4年度～)

➤ これまでの実績(H20年(2008年)8月より開始)

年度	月	月数	予定人数	実施人数	実施率(%)
H20～H31	—	140	13,220	12,795	96.7
R2	5～3	11	1,033	523	50.6
R3	4～3	12	898	577	64.2
R4	4～3	12	852	1,019	119.6
R5	4～3	12	816	826	101.2
合計	—	—	16,819	15,740	—



➤ ブックスタートフォローアップ

- ・育児相談に参加して、絵本の読み聞かせ等を毎月1回実施

図書館の子育て支援サービスの取組について

【事業等】

○おはなし会

➤ 実績(R5年度)

館名	回数	参加人数	ボランティア参加数
飯塚	48	354	40
ちくほ	34	146	22
庄内	27	169	13
穂波	33	217	15
颯田	11	86	10
合計	153	972	100

➤ 「赤ちゃん向けおはなし会」の実績
※上記の内数

館名	回数	参加人数
飯塚	12	92
ちくほ	11	36
庄内	11	30

➤ 子育て支援センターとの連携実績
※庄内及び穂波は上記の内数

施設名	回数	参加人数
街なか子育てひろば	4	73
庄内子育て支援センター	12	115
穂波子育て支援センター	12	146

図書館の子育て支援サービスの取組について

【事業等】

○子育て支援講座

➤ 実績(R5年度)

月日	内容	場所(館名)	参加人数
6月27日	フォト教室	庄内	13
12月23日	音楽遊び	ちくほ	15
3月23日	親子でチャレンジ! 春のむしをさがそう	飯塚	12

○団体貸出等

(飯塚館)

- ◆ 街なか子育てひろばに「赤ちゃん絵本」「保護者向けの本」等の団体貸出(年3回)
- ◆ 保育園・幼稚園等への絵本セット貸出(*1)

(*1)R4年度より、市内の保育所・認定こども園・幼稚園を対象に絵本セット(1セット100冊)の貸出を開始

(庄内館)

- ◆ 赤ちゃん向け絵本3冊セットの貸出(個人利用者)

図書館の子育て支援サービスの取組について

【事業等】

○その他

子どもたちの健やかな成長を願い、各種資料・情報の収集・集約を図るだけでなく、小・中学校への団体貸出や図書館見学、職場体験等を通して、学校生活の支援とともに、将来を見据えて、社会全体への関心、社会活動への参加を推進する。

➤ 団体貸出(R5年度)

区分	1学期		2学期		3学期		計
	貸出数	校数	貸出数	校数	貸出数	校数	貸出数
小学校	3,819	16/19	4,055	17/19	3,832	17/19	11,706
中学校	37	1/10	30	1/10	55	1/10	122
計	3,856	—	4,085	—	3,887	—	11,828

➤ 一日図書館職員体験(小学3年生)
体験者数 計54人(飯塚・ちくほ・庄内・穂波 全4日間)

- 図書館見学・職場体験・就労支援
 - ・ 図書館見学 小学校4校 計229人
 - ・ 職場体験学習 小・中学校各1校 計15人
 - ・ インターンシップ 高校2校 計2人
 - ・ 図書館実習 短大1校 計2人

一日図書館職員体験
小学3年生のみなさん!
図書館で一緒にお仕事しませんか?

日にち
7月25日(火)・26日(水)・27日(木)・28日(金)

体験内容
図書の貸出、返却、整理 など

場所
飯塚図書館・ちくほ図書館・庄内図書館・穂波図書館

申込締め切り: 6月18日(日)
申込書は飯塚市の各館でもらおうか
ホームページから印刷してね?

お問い合わせ先
飯塚図書館 0948 (22) 5352
ちくほ図書館 0948 (27) 3849
庄内図書館 0948 (82) 4155
穂波図書館 0948 (29) 1972

◇子ども図書館に関する各委員会での意見及び対応について

福祉文教委員会資料
令和6年11月12日提出

【子ども図書館整備等検討委員会】

意見・要望等	意見等に対する対応
穂波図書館の2階まで含めた改修をしたい	1階、2階すべて改修し、子ども図書館とする。
ハイハイをしても大丈夫な場所	1階開架スペースに靴を脱いで上がるスペースを設置。 1階におはなし部屋を設置。
1階に靴を脱いで上がるスペース (親が子どもを膝の上に乗せて読み聞かせができるような場所)	
1階開架エリア 双子用ベビーカーも通れる通路の確保	横型の双子用ベビーカーでの通行は難しいため、貸出用備品で小型のベビーカーを配置するなどに対応予定。
1階寝そべりスペースに靴箱の設置	安全性などを検証し、設置するか検討。
おはなし会などのイベントができるスペース	1階におはなし部屋を設置。おはなし会などのイベントがない時は、自由に利用できる部屋として開放。
読み聞かせや絵本を楽しむ部屋 (保育所は0歳児のクラスは1階に設置と決まっている。読み聞かせや絵本を楽しむような部屋は1階が望ましい。)	
壁があることで子どもたちが集中して読書や親子のコミュニケーションに取り組むことができる。	1階開架スペースには造作本棚や家具を設置、2階開架スペースにも造作本棚を設置し、子どもたちが読書に集中できる場所を作る。
一人でじっくり本を読むような場所	
静かに読書が楽しめるスペース	
赤ちゃんが泣いたときなどに、ジュースやお菓子を食べさせて落ち着かせることができる空間	1階に談話室（リフレッシュコーナー）を設置
親子でコミュニケーションが取れる場所に加え、他の利用者との交流もできる空間となるような飲食スペース。	
保護者がくつろげるスペース	

意見・要望等	意見等に対する対応
親子トイレや多目的トイレの設置	1階にこどもトイレ、多目的トイレを設置。
授乳室（扉付き）の設置	1階に扉付き（鍵付き）の授乳室2室を設置
1階は中央部分にカウンターがあると、1階フロア全体を見渡せて良い。 1階・2階に職員の配置	1階・2階に司書カウンターを設置し、職員を配置。
学習室の設置	2階開架スペースにカウンターと椅子を設置（5席程度）。2階多目的室及び展示室を利用のない時は、学習スペースとして開放。インターネットコーナーは今後検討する。
2階に学習室とインターネットコーナーの設置	
2階の閉塞感を軽減するために窓の設置	2階開架スペースと多目的室に窓を設置。 誘導灯による避難経路を確保。
2階に非常口の設置	
大学と連携しながら実験などができ、科学と触れ合えるようなスペース	2階に常設科学展の部屋を設置。科学のイベントなどを定期的実施予定。
様々な年齢の本や新聞を置いてほしい	蔵書については、児童書及び育児書関係。 新聞は、設置の方向で検討中。 雑誌などは育児に関するものを設置予定。
一般書や新聞、雑誌、ファッション誌の設置	
備品などは、講師や大学生が使いやすいように、机やプロジェクターなどこだわってほしい。	備品については、今後選定。
1、2階の開架スペースに椅子等の設置	
市内の図書館にはパソコンやタブレットを使い学習するスペースがないので、Wi-Fi環境を整備してあげたい。	図書館利用者のニーズ、市が提供するサービスの方針等を踏まえ、関係課と協議、検討を行う。
駐車場の安全面の強化。来館場所（交流センター、体育館、図書館）で駐車スペースを分けるなど対策を検討。	関係課（まちづくり推進課、スポーツ振興課）と今後協議を行う。

【図書館運営協議会】

意見・要望等	意見等に対する対応
視界を遮らないほうがよい。図書館の壁際に本棚等を置いてみては。	1階の本棚は背の低いものを設置。 2階は背板のない本棚を設置し、視認性を確保する。
子ども図書館全館で声を出してもよいとするか、声を出せるところ、出せないところで分けることもスペースがあれば検討してほしい。	1階は読み聞かせや談話室（スペース）でのおしゃべりなどして、声を出してよい。 2階は比較的静かな空間を想定している。
子育て関係部署や学校関係部署等との連携を深めてほしい。	今後も子育て関係部署や学校（小中高大）との連携・協議を行っていく。
子ども図書館ワークショップに参加した。今後も定期的に実施してほしい。	子ども図書館ワークショップは今後も開催予定。
子どもの意見を反映してほしい。	子ども図書館ワークショップで子どもの意見を集約し、運営に反映する予定。
穂波図書館の2階まで改修するのであれば、ターゲットの年齢を少し広げてほしい	蔵書については、スペースの都合上、ターゲットを広げることは難しい。
子育て支援センターに入館できない小学生の居場所となる子ども図書館となってほしい。	子ども図書館は誰でも利用できる施設であり、科学や情報分野をはじめ、小学生が読書をし、学習することも可能なスペースともなり得る。
図書館の使い方を学ぶ場所と同時に、誰でも寛容される図書館であってほしい。	子ども図書館は誰でも利用できる施設であり、施設内の掲示等でも周知を図りたい。
不登校児の第3の居場所。本の楽しさを教えたり、自由に来ていい場所であってほしい。	
プロジェクションマッピングなど経年劣化が大きいものよりも、恒久的に長く使える机などに予算を使ってほしい。	備品については、今後選定。
Wi-Fiの設置	図書館利用者のニーズ、市が提供するサービスの方針等を踏まえ、関係課と協議、検討を行う。
タブレットを持って図書館の学習室で学習できる環境があってもいいのではないか。	
Wi-Fiの要望もあるが、お母さんが携帯を持ちながら子育てをしている。子ども図書館は、子どもたちが保護者と一緒に本を楽しむ唯一の場所であってほしい。	—
図書館専用の駐車場の確保・整備	関係課（まちづくり推進課、スポーツ振興課）と今後協議を行う。

【福祉文教委員会】

意見等	意見等に対する対応
館内の安全性の確保。小学生の児童が1階で事故を起こした場合や小学1～2年生の児童が1人で2階にいる場合。	1階・2階に司書カウンターを設置。職員を配置し、来館者の見守りを行う。
1、2階が子ども図書館となった時に、（庄内館のように）安全性が確保できないから2階は見れないということにならないか危惧している。	
小学生が1人で利用した時の安全性の確保について	
駐車場の安全性の確保。子どもが一人で図書館から子育て支援センターに歩いていく場合の想定。	関係課（まちづくり推進課、スポーツ振興課）と今後協議を行う。通行帯の設置等の検討を行う。
飯塚市として子ども図書館が子育て支援にとっても大切な場所になるということを、教育部と福祉部で情報共有して進めてほしい。	事業連携や連携方針について、生涯学習課とこども家庭課、こども政策課の3課での協議を今後も継続。
図書館単体ではなく、居場所となるような施設との掛け算（例：「公園×カフェ」など）も選択肢として残し検討してほしい	既存の穂波図書館を改修しての建設となるため、スペースの問題等もあり、他施設との複合化は難しい状況。
今のニーズを引き出して、デザインなどもまちづくりの一つとして考えてほしい。	ワークショップの開催等により、市民ニーズの把握に努める。